

平成三年度

資料調査報告書 第十九集

—— 気多郡八葉寺村植田家資料 ——

鳥取県立博物館

序にかえて

資料調査報告書第十九集では、「気多郡八葉寺村植田家資料」について報告・紹介することとした。

この資料を伝えた植田家は、現在の気多郡青谷町八葉寺に九代続く旧家であり、江戸時代には八葉寺村の庄屋や気多郡の郡役人をつとめ、明治以降には、七代国吉氏が勝部村長をつとめるなど、この地域の政治や文化の面で指導的な役割を果たした人物を輩出している。それらの人たちによって残された植田家資料からは、この地域のさまざまな情報を得ることができる。

当館では、県下に残る古文書・古記録の調査・収集に努めているが、本資料のような農村文書の調査・収集に関してまだまだ不十分である。本報告書の刊行を契機に、より一層の調査・収集に努力したいと考えるものである。本資料が広く利用され、地域の歴史研究の一助となることを心から願っている。

このように貴重な資料を御提供いただいた植田美実氏の御厚志に、改めて深く感謝申し上げる次第である。

平成四年三月

鳥取県立博物館長

長石 肇

目次

序にかえて	1
目次	1
I 気多郡八葉寺村植田家資料目録	2
II 解題	15
1、気多郡八葉寺村について	
2、植田家について	
3、植田家資料の概要	
あとがき	19

I 気多郡八葉寺村植田家資料目録

資料番号 資料名 作成者・請取人 年月日 形態 数量

一、郡役人関係

- 1 気多郡田原谷村御割賦田畑宛口御年貢差引帳巻
筆算方八葉寺村源五右衛門 安政四年閏五月 冊子 一冊
- 2 気多郡田原谷村本免田畑宛口御年貢差引帳式
筆算方八葉寺村源五右衛門 安政四年閏五月 冊子 一冊
- 3 気多郡田原谷村下免田畑宛口御年貢差引帳
筆算方八葉寺村源五右衛門 安政四年閏五月 冊子 一冊
- 4 気多郡田原谷村願田成年限中等品々宛口米帳
筆算方八葉寺村源五右衛門 安政四年閏五月 冊子 一冊
- 5 気多郡田原谷村物成引願記年限中懸組等宛口取分改落帳
筆算方八葉寺村源五右衛門 安政四年閏五月 冊子 一冊
- 6 気多郡鳴瀧村本免田畑宛口御年貢差引帳巻
筆算方式村千七・亀屋村与平二 安政四年六月 冊子 一冊
- 7 気多郡鳴瀧村本免田畑宛口御年貢差引帳式
筆算方式村千七・亀屋村与平二 安政四年六月 冊子 一冊
- 8 気多郡北河原村本免田畑宛口御年貢差引帳式冊之内上
筆算方善崎村嘉助・鳴瀧村千七 安政四年八月 冊子 一冊
- 9 気多郡八葉寺村本免田畑宛口御年貢差引帳式
筆算方八葉寺村源五右衛門 安政四年閏五月 冊子 一冊
- 10 気多郡紙屋村自分田成等品々宛口米帳
筆算方八葉寺村源五右衛門 安政四年閏五月 冊子 一冊

- 25 河村郡中興寺・引地両村傍示二而松崎無宿善四郎女房
益死両村取調口書写 元治二年五月 冊子 二冊
- 26 河村郡村々諸願書御断帳(根帳面書入等) 佐々木忠治郎 岩本市郎左衛門宛 弘化二年正月 冊子 一冊
- 27 気多郡西構品々御取立帳控 植田源五右衛門 安政三年十月 横帳 一冊
- 28 気多郡西構村々宛口御年貢差引過米帳
筆算方八葉寺村源五右衛門 安政四年九月 横帳 一冊
- 29 御用日記 植田氏 慶応元年閏五月 横帳 一冊
- 30 御用向品々(後欠)(植物方関係) 慶応二年九月廿九日 横帳 一冊
- 31 村々別取立六毛米御貸米御蔵番賃自分荒禱作場大豆高
非人給帳 植田源五右衛門 慶応二年十二月 横帳 一冊
- 32 気多河村両郡蘭斤目人別集帳ひかえ 植田源五右衛門 慶応四年九月 横帳 一冊
- 33 [気多郡村高書上]
[気多郡村々物成書上] 文化十一年閏十一月 横帳 一冊
- 34 [鳥取藩組帳写] 文化十一年十一月 横帳 一冊
- 35 [鳥取藩支配帳写] 文化十一年十一月 横帳 一冊
- 36 [鳥取藩支配帳写] 安政五年正月 横帳 一冊
- 37 御触書状写 植田源五右衛門 文久二年閏八月 横帳 一冊
- 38 御触書写 文久二年閏八月 横帳 一冊
- 39 公方様長州江御引合写し 慶応二年六月 横帳 一冊
- 40 [気多郡村々一覽表] 八月廿九日 一紙 一通
- 41 [御用状写](郡役廻村の節増銀) 羽田吉之進 八月廿九日 一紙 一通
- 42 [小畑村山出入裁許状写] 毎野治右エ門・竹内林治郎 享保十八年九月 一紙 一通

- 11 気多郡紙屋村荒方差別帳
筆算方八葉寺村源五右衛門 安政四年閏五月 冊子 一冊
- 12 気多郡紙屋村屋鋪帳
筆算方八葉寺村源五右衛門 安政四年閏五月 冊子 一冊
- 13 乍恐口上書之覚(伯州田畑村中心一件)写
田畑村邑中 寛政六年六月五日 一紙 一通
- 14 八葉寺村兵三郎平福より送届御達書控 文政十二年十二月 冊子 一冊
- 15 気多郡八葉寺村治郎右エ門母益死先達控 天保五年二月 冊子 一冊
- 16 気多郡八葉寺村益死人達控 天保五年二月 冊子 一冊
- 17 周防国大嶋郡小松目見村吉十郎破船書類写 天保十三年七月 冊子 一冊
- 18 気多郡小畑村文吉於八上郡谷一木村益死掛之者取調口書写 嘉永七年七月 冊子 一冊
- 19 気多郡楠根村出火口書控 安政三年四月十五日 冊子 一冊
- 20 気多郡北河原村重兵衛倒死見附人絹見村瀬左衛門御取調口書写 文久元年五月 冊子 一冊
- 21 北河原村重兵衛絹見村傍示字一水口と申所ニ倒死仕懸り者夫々御取調書写し 文久元年五月 冊子 一冊
- 22 気多郡紙屋村源次郎娘ぬい益死親源次郎并家内之者御取調書写 文久二年六月 冊子 一冊
- 23 気多郡紙屋村利平居宅出火焼失御取調口書写 文久二年閏八月 冊子 一冊
- 24 八橋郡東園村千左衛門借船松多郡姫路村灘ニ而破船海死一件右千左衛門御吟味口書控 文久三年三月六日 冊子 一冊

- 43 奉願上御小人奉公人之事 山田村庄屋助左エ門 尾崎武兵衛宛 文政七年七月 一紙 一通
- 44 植物御断之覚 山田村年寄富右エ門・庄屋助左エ門 尾崎武兵衛宛 文政十年二月 一紙 一通
- 45 奉願御小人奉公人之事 八葉寺村庄屋佐一郎 尾崎重兵衛宛 天保十一年八月 一紙 一通
- 46 [救米式拾石下附願案](前欠) 八葉寺村 万延二年二月 一紙 一通
- 47 乍恐奉願上口上之覚(新田開免願) 八葉寺村忠十郎・久右衛門 後藤賢治郎宛 万延二年三月 一紙 一通
- 48 乍恐奉願上覚(植苗貸付願) 八葉寺村吉助 植田源五右衛門宛 文久二年正月 一紙 一通
- 49 乍恐奉願上覚(植苗付のため借銀借苗願) 絹見村市三郎 植田源五右衛門宛 文久二年正月 一紙 一通
- 50 [未用村植物不許可願](前欠) 未用村 植田源五右衛門宛 文久二年二月 一紙 一通
- 51 乍恐奉願上覚(桑苗御買上願) 善崎村直右衛門 植田源五右衛門宛 文久二年三月 一紙 一通
- 52 [銀札二百匁拜借願](前欠) 河内村久五郎 植田源五右衛門宛 文久三年六月 一紙 一通
- 53 乍恐奉願上覚(蘭糸取御免願) 楠根村藤左衛門・重藏 植田源五右衛門宛 元治元年六月 一紙 一通
- 54 乍恐奉願上覚(糸取御免願) 八葉寺村善九郎 植田源五右衛門宛 元治元年六月 一紙 一通
- 55 乍恐奉願上覚(蘭糸取御免願) 山根村分五郎他六人 植田源五右衛門宛 元治元年六月 一紙 一通

116	村々所持田畑畝高御年貢宛口米地利米帳	植田源五右衛門	安政六年十一月	横帳	一册
117	因幡国気多郡山田村地内田畑山林所持限書上地券証御	下渡願帳 植田幸一郎	明治六年四月	册子	一册
118	因幡国気多郡楠根村地内田畑山林所持限書上地券証下	渡願帳 植田源八郎	明治六年三月	册子	一册
119	因幡国気多郡八葉寺村地内田所持限書上地券証御下渡	願帳 小谷佐平	明治六年三月	册子	一册
120	他村過米差引帳	植田幸一郎	明治七年十二月	册子	一册
121	當村地租改正田畑所持帳	植田源八郎	明治九年八月	横帳	一册
122	地租改正反別宛口米小作人証書入下調帳簿	植田源八郎	明治九年八月	横帳	一册
123	田畑屋敷宛口米ノ内金立正米取分帳	植田源八郎	明治九年八月	横帳	一册
124	別宅分内田畑山林下帳		明治十年三月	横帳	一册
125	分家讓渡願下書		明治十年五月	横帳	一册
126	古借金払済人別帳麦作分		明治十一年十二月	横帳	一册
127	成暮書出明細帳	植田幸一郎	明治十九年十二月	横帳	一册
128	大洪水ニ付地所荒地ノ分	植田幸一郎	明治二十六年九月	横帳	一册
129	〔所持田畑宛口米帳〕			册子	一册
130	〔小畑村分地利米帳〕			横帳	一册
131	〔村々名寄帳写(磯治郎分)〕			横帳	一册
132	気多郡八葉寺・田原谷新田植付書上帳	八葉寺村善五郎	文政十二年五月	册子	一册
133	〔自分所〕持改正地租取調帳	植田幸一郎		册子	一册

149	永代ニ売渡申屋敷之事	八葉寺村忠左衛門 同村斧右衛門	享和二年正月	一紙	一通
150	借用申銭之事	八葉寺村善五郎 山崎村与七郎宛	文化七年正月	一紙	一通
151	永代売渡ス証文之事	八葉寺村善五郎 山崎村与七郎宛	文化八年正月	一紙	一通
152	永代売渡申田地之事	露谷村半兵衛 八葉寺村善五郎宛	文化十二年十二月	一紙	一通
153	永代讓渡申田地之事	八葉寺村善五郎 菅川村善三郎宛	(文化) 十三年正月	一紙	一通
154	永代売渡し申田地之事	田原谷村忠左衛門 八葉寺村藤左衛門宛	文化十五年三月	一紙	一通
155	別内地所証文	曾七 茂兵衛宛	天保十一年二月	一紙	一通
156	永代売渡申田畑之事	当村藤五郎 源五右衛門宛	嘉永二年正月	一紙	一通
157	質入借用証文之事	田原谷村民三郎 源五右衛門宛	嘉永五年六月	一紙	一通
158	口上書之覚(永代買取証文)	当村源五右衛門 当村新右衛門宛	嘉永五年正月	一紙	一通
159	借用手形之事	当村平兵衛 源五右衛門宛	嘉永六年三月	一紙	一通
160	永代売渡申地之事	田原谷村民三郎 源五右衛門宛	安政二年正月	一紙	一通
161	永代ニ讓渡申田地之事	植田源八郎 植田幸一郎宛	明治十一年十月	一紙	一通

134	〔田原谷村地利米帳〕			横帳	一册
135	助市所持田畑地利米帳写			横帳	一册
136	〔名寄帳写残簡〕			一括	
137	永代売渡山ヶ之事	倉吉市や与一兵衛	宝曆五年二月	一紙	一通
138	永代ニ売渡シ申屋敷之事	八葉寺村二郎兵衛 同村惣四良宛	宝曆九年十二月	一紙	一通
139	永代ニ売渡し申屋敷之事	八葉寺村善七 同村善五郎宛	宝曆十二年四月	一紙	一通
140	永代ニ売渡シ申田地之事	八葉寺村兵吉 同村善五郎宛	安永五年五月三日	一紙	一通
141	質入証文之事	八葉寺村勘兵衛 同村善五郎宛	天明三年十二月	一紙	一通
142	永代ニ売渡申田地之事	龜屋和三郎 露谷村源藏宛	天明三年十二月	一紙	一通
143	永代ニ売渡申畑之事	八葉寺村藤吉 同村善五郎宛	天明四年正月	一紙	一通
144	永代ニ売渡シ申畑之事	八葉寺村兵吉 後家 同村斧右衛門宛	天明四年十二月	一紙	一通
145	質入証文之事	八葉寺村清兵衛 同村斧右衛門宛	天明四年十二月	一紙	一通
146	質入証文之事	八葉寺村忠助 同村斧右衛門宛	天明五年十二月	一紙	一通
147	永代ニ売渡申田地之事	龜屋和七郎 露谷村源藏宛	天明六年正月	一紙	一通
148	永代ニ売渡シ申畑之事	茂兵衛 斧右衛門宛	享和元年十二月	一紙	一通

162	借金払済証文	植田幸一郎 寿作宛	明治十一年十二月	一紙	一通
163	永代売券状一札之事案			一紙	一通
164	永代売渡証	八葉寺村橋本惣次郎 小畑村田中松太郎宛	明治二十九年十一月四日	一紙	一通
165	金借用証	田原谷村小泉熊吉 植田国吉宛	明治四十一年九月十三日	一紙	一通
166	楠根村懸り合証文写(永代証文写等)		天保二年二月八日	册子	一册
167	〔青谷源右衛門懸合答書〕			一紙	一通
168	乍恐口上覚案(山崎与七郎・青谷源右エ門懸合ニ付)			一紙	一通
169	乍恐口上之覚(銀札貸借に付 菅崎村権治郎との訴訟)	八葉寺村磯治郎 尾崎武兵衛・花原七郎左衛門宛	天保三年九月	一紙	三通
170	乍恐奉願上口上之覚(河原村久兵衛の地利米滞納を訴える)	八葉寺村磯治郎 尾崎重兵衛宛	天保八年九月	一紙	一通
171	〔借用金出入ニ付御下知願写〕	願主 久兵衛 尾崎重兵衛・吉田儀左エ門宛	天保九年七月	一紙	一通
172	覚(純糸目方惣合)	植田源五右衛門 御国産御役所宛	子五月	一紙	一通
173	御国産植物方御請品々帳	植田源五右衛門	文久元年十二月	横帳	一册
174	〔銀札借用証文〕(前欠)	植田源五右衛門 産物御会所宛	慶応元年閏五月	一紙	一通

175	覚 (河原村久兵衛との懸合内済二付、願書御下ケ願案)	一紙	一通
176	磯治郎 尾崎・吉田宛 〔銀子借用証文〕(前欠) 植田源五右衛門 産物御会 所宛	一紙	一通
177	心得違誤証書 植田寿作 植田御祖父宛	一紙	一通
178	諸願書認紙入費帳 植田幸一郎	横帳	一册
179	五年期起返地取調野取帳	横帳	一册
180	分家材木数日記	横帳	一册
181	氣高郡小作奨励組合并賦保筆校原簿 勝部村	横帳	一册
182	大福帳 植田国吉	横帳	一册
183	金錢取扱規則 吉田正平代理 植田柳平	横帳	一册
184	車音其他設計書	横帳	一册
185	(2) 冠婚葬祭 婚姻指諸事覚(善五郎娘おもと) 植田善五郎	横帳	一册
186	不惑有二之賀祝覚 植田善五郎	横帳	一册
187	六十一之賀祝覚(母還曆) (植田磯治郎)	横帳	一册
188	祝賀并餅配人別帳	横帳	一册
189	婚礼客来書留記	横帳	一册
190	婚礼みやげ目録	横帳	一册
191	明治二十六年旧正月廿式日献立目録	横帳	一册
192	婚礼荷物記・みやげ目録	横帳	一通

193	不惑有二賀附留帳 植田国吉	横帳	一册
194	婚姻式客来書留帳	横帳	一册
195	婚礼みやげ目録	横帳	一册
196	山根吉四郎書状(婚姻贈答の礼)	横帳	一册
197	右衛門宛 某雅知書状(婚姻の祝) 雅知	横帳	一册
198	年中四季発句拔集覚帳 西因	横帳	一册
199	観音堂奉納拔章	横帳	一册
200	熊野山祭奉燈秀吟	横帳	一册
201	熊野山祭奉燈拔句	横帳	一册
202	〔俳諧相撲番付〕	横帳	一册
203	〔俳諧本引札〕	横帳	一册
204	〔菅水舎小磨・楠丈父子を讃える文〕 木鳥	横帳	一册
205	〔小磨宗匠を讃える文〕 其雄	横帳	一册
206	〔其雄寿歌〕 其雄	横帳	一册
207	〔小磨俳句〕 小磨	横帳	一册
208	石城真流立机披露集拔書	横帳	一册
209	〔俳句草稿〕	横帳	一册
210	〔句帳〕 稲葉庵	横帳	一册
211	俳句短冊 楠丈・玉石他	横帳	一册
212	聞書(句帳) 菅水舎小磨	横帳	一册
213	萬聞書(句帳)	横帳	一册
214	萬聞書(句帳) 菅水舎	横帳	一册
215	萬聞書(句帳) 菅水舎	横帳	一册

216	聞書(句帳)	横帳	一册
217	俳諧六之吟 仙林他	一紙	一枚
218	俳諧埋木 全 北村季吟撰	木版	一册
219	笈の小文 全 風羅坊芭蕉	宝曆十三年	一册
220	千代尼句集上・下 加州金陵半化坊序	寛政元年再刻	一册
221	芭蕉翁発句集下	寛政六年刊	一册
222	発句題林集 春之部 關吏関・車蓋撰	寛政七年刊	一册
223	統七部集 芭蕉堂蘭更序	文化八年刊	一册
224	俳諧四季文集上・下 五春荘弁扇撰	文政三年刊	一册
225	俳諧七部集大鏡上・中・下	文政三年刊	一册
226	俳諧近世発句類題集 春・夏・冬 江戸雀堂 来曾編	文政三年刊	一册
227	寸珍俳字節用集上・下 高井蘭山編	文政六年刊	一册
228	自然堂千句乾坤(俳諧連歌独吟十首韻集)	天保六年刊	一册
229	行々子 寄世庵柏実	天保七年刊	一册
230	古風談林・正風誹家大系図上・下	天保十一年刊	一册
231	秋風庵文集 乾・坤 秋風庵月化	天保十二年刊	一册
232	註解改正月令博物筌	天保十二年刊	一册
233	俳諧文章車	天保十二年刊	一册
234	統俳諧十二律五 楠窓閣本駿台輯	天保十二年刊	一册
235	掌中附合集(俳諧集) 東都 禾木園校輯	天保十三年刊	一册
236	〔俳諧季寄〕	天保十三年刊	一册
237	発句類題雪車道 六合庵 松岡茶山編	天保十四年刊	一册
238	炭俵	天保十四年刊	一册
239	九皇舎遺稿	弘化三年刊	一册

240	近世俳諧十家類題集上・下 過日庵 祖郷撰	横帳	一册
241	類題鳳朗発句集 二篇上 鳳朗	嘉永五年刊	一册
242	芳新集 六・八・九	嘉永七年刊	一册
243	枯尾花 上・下(芭蕉翁終焉記)	一册	一册
244	葛の松原 全 野盤子支考述・潜湖菴 不玉撰	一册	一册
245	俳諧十論 東華坊述	一册	一册
246	俳諧名所小鏡 上・中・下 蝶夢編	一册	一册
247	俳諧発句新題葉気 夏	一册	一册
248	俳諧流行発句集 秋部・雜部(俳諧集) 菅長成編	一册	一册
249	御紀行(池田重寛の句集) 菅水舎小磨写	天明元年成立	写本 一册
250	饒舌録 上・下 元木阿弥著 菅水舎小磨写	嘉永七年写	一册
251	直指伝 二柳庵三四坊	原安永二年	一册
252	俳家奇人談拔書	嘉永六年写	一册
253	古人談	一册	一册
254	饒舌録拔書	一册	一册
255	六義	一册	一册
256	俳諧冬の部(自作推稿用)	一册	一册
257	七種柏伝深秘	一册	一册
258	庭訓往来 山田賞月先生筆	木版	一册
259	嘉永再刻庭訓往来	木版	一册
260	女庭訓御所文章	木版	一册

261	假名付消息并假名文章	長玄海堂筆	寛政三年刊	木版	一冊
262	賀堂整文并假名手本	長玄海堂筆	寛政三年刊	木版	一冊
263	〔状書下地〕		寛政五年刊	木版	一冊
264	戸田文章春秋			木版	一冊
265	〔庭訓〕			木版	一冊
266	新板大字実語教・童子教			木版	一冊
267	日本略史(鳥取師範学校編輯)		明治八年刊	木版	一冊
268	書牘諸証文二(文部省編さん)		明治十二年刊	木版	一冊
269	簡易読本 卷四			印刷	一冊
270	国民読本 尋常小学校用 卷四		明治三十年刊	印刷	一冊
271	御手本		慶応二年	写本	一冊
272	〔いろは〕				
273	商売往来 植田梅吉写		安政五年写		一冊
274	諸職往来				一冊
275	女大学 おはる写		明治三年正月写		一冊
276	小野算歌字尽		安永四年写		一冊
277	〔曾我状他〕				一冊
278	弁慶状 植田陸松写		安政四年写		一冊
279	曾我状 植田陸松写		嘉永六年写		一冊
280	千字文 植田吉写		明治三年写		一冊
281	大坂状・源氏文字鐔 植田氏		慶応三年写		一冊
282	今川状		安政二年写		一冊
283	腰越状 亀尻村伊藤兵吉				一冊
284	児童教訓 亀尻村伊藤兵吉				一冊
285	〔京めぐり〕 北海堂素満書				一冊
286	手習手本				一冊

287	中等教科習字帖下		明治四十年刊	折本	一冊
六、その他の文書					
(1) 寺					
288	弥勒寺田畑宛口地利米村々祠堂米帳	壇頭植田源五右衛門・長谷川惣右衛門・長谷川吉三郎	安政七年三月	冊子	一冊
289	山門格式考 植田氏		嘉永七年六月	冊子	一冊
290	天正年中天下諸寺院宗門請合提	弥勒寺現任義秀		冊子	一冊
(2) 講					
291	講請合証文之事	講受主亀尻村忠助 八葉寺村斧右衛門宛	享和元年十二月	一紙	一通
292	講請合証文之事	取主弥勒寺 講御連中宛	弘化四年十二月二十五日	一紙	一通
293	講請合証文之事	取主源五右衛門 御連中宛	嘉永二年十二月	一紙	一通
294	講請合証文之事	取主亀尻村又市 御連中宛	嘉永三年十二月	一紙	一通
295	講質入請合証文之事	取主久右衛門 講御連中宛	嘉永四年十二月	一紙	一通
296	氣高郡山西融通講則		明治三十八年	冊子	一冊
(3) その他					
297	金比羅宮參詣道中記 植田幸一郎		明治十二年三月	横帳	一冊
298	萬漬物干物仕養伝 源五右衛門写		嘉永七年閏七月	冊子	一冊

299	楠根村字絵図	八葉寺村善五郎		一紙	一枚
300	〔田原谷村堂ヶ谷新田絵図〕			一紙	一枚
301	〔紙屋村山絵図〕			一紙	一枚
302	萬曆西面曆	大阪野筋通清水町北江入伊予屋善兵衛		木版	一枚
303	辨鼓種之男女図			一紙	一枚
304	黒住教入門祭雛形			一紙	一枚
305	黒住教神文雛形			一紙	一枚
306	東作法書限	八葉寺村忠兵衛	寛政六年正月	一紙	一枚
307	土性御名乗	祥彌	嘉永五年閏二月	一紙	一枚
308	〔文大全(祭状・祭状口上等手本)〕			冊子	一冊
309	〔荒木田守武世中百首〕			仮綴	一冊
310	明治天皇御製短冊	版正臣書		印刷	一冊
311	〔雜記帳〕			冊子	一冊
七、書 籍					
(1) 漢 書					
312	論語(天保校正・道春點)		一・三・四	木版	三冊
313	中庸(文化再刻・道春點)			一冊	一冊
314	中庸(天保校正・道春點)			一冊	一冊
315	孟子(文化再刻・道春點)		一・二・三・四	四冊	四冊
316	孟子(天保校正・道春點)		一・二・四	三冊	三冊
317	禮記(新刻校正・道春點)		一・二・三・四	四冊	四冊
318	易経(新刻校正・道春點)	乾・坤		二冊	二冊
319	書経(新刻校正・道春點)	天・地		二冊	二冊
320	春秋(新刻校正・道春點)			一冊	一冊

321	羅山訓點 詩経 上・下			二冊	二冊
322	古文真宝(天明再刻) 乾・坤			二冊	二冊
323	古文真宝餘師 一・四			四冊	四冊
324	経典餘師 一・五・十			六冊	六冊
(2) 国 文					
325	和漢朗詠集 上・下			二冊	二冊
326	方丈記流水抄全		文政六年刊	一冊	一冊
327	徒然草 卷三・四・五・六		享保四年刊	四冊	四冊
328	西行法師一代記 一・二・三・五		慶安四年刊	八冊	八冊
329	長明発心集 八卷 中野小左衛門刊行			三冊	三冊
330	百人一首 上・中・下			一冊	一冊
331	増補和歌題材抄 中之二			一冊	一冊
332	土佐日記			一冊	一冊
333	古今和歌集			一冊	一冊
334	敬雨翁追福歌仙			一冊	一冊
(3) 軍記・歴史・読物					
335	北条太平記 全二十一卷 馬場玄隆著		享保二年刊	木版	二十一冊
336	太閤真蹟記 二編			写本	六冊
	五編			十冊	十冊
	六編			十冊	十冊
	七編			十冊	十冊
	八編			十冊	十冊
	九編			三冊	三冊

337 有斐録(池田光政伝) 上・中・下 植田氏写 一冊

338 義公仁徳録(水戸黄門伝) 上・中・下 植田氏写 三冊

339 真田三代実記 三編卷二十二二十五 明治二年写 一冊

340 (慶安太平記 一・二) 二冊

341 赤穂精義内侍所 全四卷 二十冊

342 (赤穂精義内侍所) 一冊

343 松井報讐記 上・中・下 植田氏写 慶安四年写 三冊

344 伊達騒動記 全十五卷 五冊

345 護国女太平記 全十五卷 七冊

346 天下茶屋敵討真伝記 乾・坤 菅水舎小磨写 文久元年写 二冊

347 厭食太平記 全六冊 六冊

348 南嶋変乱記 全一卷 一冊

349 操鏡女敵討 全 植田氏写 文久元年写 一冊

350 加州敵討目録 文化元年写 一冊

351 敵討極秘録 全 一冊

352 雙嶋志俗蒙傑 上・下 二冊

353 奥州女敵討 植田氏写 一冊

354 男山八幡利生記 一冊

355 悪狐三国伝 下 幸右衛門写 万延元年写 一冊

356 賊禁秘談 上 一冊

357 石川五右衛門根元記 下(賊禁秘談 下) 一冊

358 因果物語技書之写 菅水舎小磨写 明治十一年四月 一冊

359 奇譚手曳の糸 卷一・二・五 木版 三冊

360 絵本敵討孝女伝 卷の二 一冊

361 絵本復讐英雄録 四編卷二・七 二冊

362 霜夜星 一・三・四・五 柳亭種彦 文化四年刊 四冊

363 絵本頭男録 一・六・七・八・十 五冊

364 目なし草 一休水鏡注 全 一冊

365 絵入一休はなし 上・中・下 文政十一年刊 三冊

366 一休諸国物語技書 安政二年写 写本 一冊

367 教外俗文娘消息 二編 三文舎作 木版 一冊

368 天地或問珍 地 一冊

369 諸道具太平記 文化十一年写 写本 一冊

370 二十四孝図会 全 文政五年刊 木版 一冊

371 小児養育金礎 潜龍石田鼎貫著 文久二年再刻 木版 四冊

(4) 曆・易・本草学

372 佛国歴象編 五卷 文化七年刊 木版 五冊

373 家相必用方監精義大成 乾・坤 松浦重鶏著 文政十年再版 木版 二冊

374 断易天機 卷三・四 木版 一冊

375 易学小筭 宝曆四年刊 木版 一冊

376 古易一家言 新井白蟻黄州著 宝曆六年刊 木版 一冊

377 日本歳時記 春・夏・秋・冬 貞原益軒著 貞享五年刊 木版 四冊

378 日本釈名 上・中・下 貞原益軒著 木版 三冊

379 岐蘇路記 貞原益軒著 宝永六年刊 木版 一冊

380 増補大日本年中行事大全 二・三・四・六 木版 四冊

381 衆方規矩(漢方藥) 木版 一冊

382 薬種名寄帳 正徳五年刊 木版 一冊

383 増訂本草備要 下 享保十四年刊 木版 一冊

384 本草図按書 小摩呂写 明治十年一月写 写本 一冊

(7) 和 算

403 改算記 下卷 持永十郎兵衛・大橋又太郎改撰 貞享四年刊 木版 一冊

404 新撰訂正算法稽古図会大成 天保二年刊 木版 一冊

405 (算法書講帳一算知) 写本 一冊

406 算法問書録 広富政武写 写本 一冊

407 演段術書録 広富政武写 写本 一冊

408 算法規矩術 写本 一冊

409 算法秘言 山根雅智写 明治八年写 写本 一冊

410 (開立口伝秘言) 写本 一冊

411 (利割算) 広富政武写 文政五年写 写本 一冊

412 関流算梯天元ノ一 写本 一冊

(5) 心学・修験・黒住教

385 我つえ 上・中・下 手島堵庵著 文政六年刊 木版 三冊

386 鳩翁道話 上・中・下 柴田鳩翁著 天保五年刊 木版 三冊

387 続鳩翁道話 中・下 柴田鳩翁著 木版 二冊

388 続々鳩翁道話 上・中・下 柴田鳩翁著 天保九年刊 木版 三冊

389 道二翁道話統編 初篇下・二篇上・三篇上・下 中沢 弘化四年刊 木版 六冊

390 心学要解 三界一心記図会 上(全三冊のうち) 木版 一冊

391 修験七部鈔 上・下 木版 二冊

392 役行者靈験記 卷上・卷下 享保六年刊 木版 二冊

393 和語陰陽録大意・功過自知録大意・太上感心編合寫完 木版 一冊

394 元三大師御開繪鈔 乾・坤 嘉永六年刊 木版 二冊

395 阿弥陀経繪鈔 上・下 安永七年刊 木版 二冊

396 醍醐理源大師行実記 乾・坤 宝永五年刊 木版 二冊

397 八尾地蔵道夜物語 写本 一冊

398 校正詳註龍頭無間関 宗紹編 宝曆二年重彫 木版 一冊

399 中臣被私注 卜部朝臣兼俱談 写本 一冊

400 諸神本像写 写本 一冊

401 道乃辺の小草(黒住教) 写本 一冊

(6) 農 書

402 再板農業全書 一十卷・附録一 文化十二年刊 木版 十一冊

(8) その他

413 柳宮秘鑑 全十卷 植田氏写 文久二年写 写本 五冊

414 (武鑑) 宝永二年刊 木版 一冊

415 必要御布令字引 黙山四方茂平 明治元年刊 木版 一冊

416 未賀能比連 木版 一冊

417 遊山窟 寧州襄楽縣尉張 慶安五年刊 木版 一冊

418 新刀銘盡 全六卷 享保六年刊 木版 三冊

419 続新刀銘盡 享保二十年 木版 三冊

420 石配自在(碁) 服部雄節著 天保十年刊 木版 四冊

421 碁之絹飾後篇 卷二 木版 一冊

422 軍法兵法記 剣術之卷 木版 一冊

423 築山庭造伝 中・下 藤井慎齋著 享保二十年刊 木版 二冊

424 欄間図式 上・中・下 写本 一冊

425	いけ花のか 後編	写本 一冊
426	広求大成和漢書函集覽 全 広覚道人	木版 一冊
427	雪山函譜 下	明治四十年刊 木版 一冊
428	本朝函林 下巻	宝曆二年刊 木版 一冊
429	京羽二重大全 八巻	延享二年刊 木版 八冊
430	長瓢(川柳集)	享保十六年 木版 一冊
431	詩後金聲 上・下	明治三年再版 木版 二冊
432	詩五碎錦 上・下 永忠原俊平著	明和四年刊 木版 二冊
433	唐詩選(李于鱗唐詩選)	木版 一冊
434	(日本国正統)(日本地名尽)	文化十年写 写本 一冊
435	因幡不思議物語 全	写本 一冊
436	気多郡郷村記	写本 一冊
(9) 淨瑠璃本		
437	誕生梅蘇生松振袖天神記	木版 一冊
438	傾城阿波の鳴門	" 一冊
439	恋女房染分手綱	" 一冊
440	安倍晴明倭言集	" 一冊
441	鐘懸	" 一冊
442	常盤御前・熊野御前姫小松子日の遊	" 一冊
443	小野の道風青柳硯	" 一冊
444	染模様妹背門松 質屋の段	" 一冊
445	酒呑童子話 保昌屋鋪段	" 一冊
446	北条時頼記	" 一冊
447	菅原伝受手習鑑	" 一冊
448	由良湊千軒長者	" 一冊

449	先陣浮巢殿	木版 一冊
450	一休和尚龜川新右エ門本朝檀特山	" 一冊
451	敵討優曇華龜山 司馬芝叟作	寛政六年刊 二冊
452	劍紅楓	" 一冊
453	信仰記祇園祭礼	" 一冊
454	聖徳太子・守屋大臣四天王寺伽藍鑑 佐川藤太作	" 一冊
455	鈴鹿合戦勢州阿漕浦 平次住家段	文久九年刊 二冊
456	(龜山)	" 一冊
457	おはん長右衛門瀧のかつら川	" 一冊
458	(布引瀧)	" 一冊
459	鎌倉三代記 三浦わかれの段	写本 一冊
460	本朝廿四孝	" 一冊
461	義経千本桜	" 一冊
462	古手屋八郎兵衛 夫重恨較籠	" 一冊
463	一の谷殿軍記 熊谷陣屋の段	" 一冊
464	新板鈴木水主	" 一冊
465	源平布引瀧	" 一冊
466	(観世流謡曲本)	元禄十一年刊 木版 二冊

II 解題

ここで報告・紹介する「気多郡八葉寺村植田家資料」は、昭和六十三年三月に植田美実氏より当館が購入した資料群である。以下、本資料の性格について簡単に解説する。

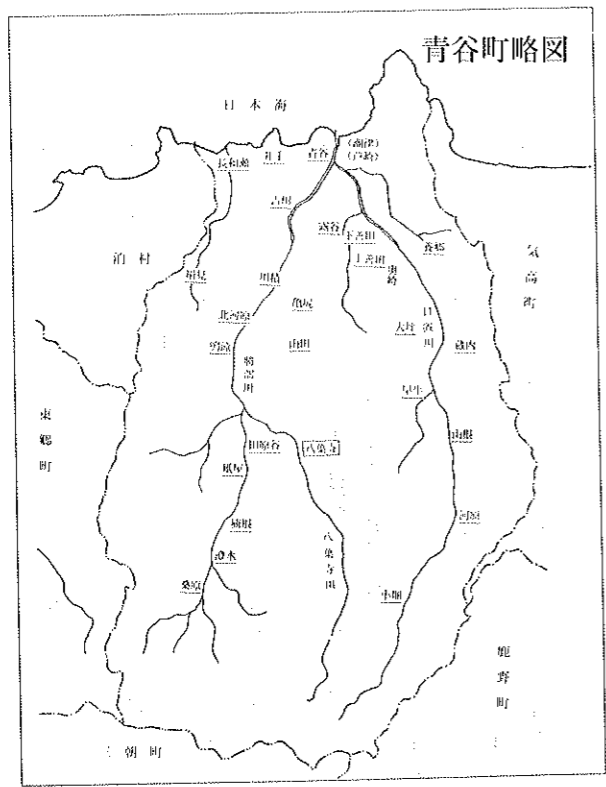
1、気多郡八葉寺村について

因幡国気多郡八葉寺村(現気高郡青谷町八葉寺)は、鳥取県東部(旧因幡国)の西端を流れる勝部川の支流八葉寺川流域の山間に位置する。上流に集落はなく、谷奥の村であるが、海岸からは比較的近く、約七キロメートルの距離である。村名の由来は、かつて地内に広い霊場があったことにちなむという。

戦国時代末期にはすでに村落を形成していたようで、旧八葉寺村百姓文書(『鳥取県史』2)の中の、年末評九月長郷禁制に、「八葉寺村」と見える。これは、村内の竹木山林を、他村より伐採する者があれば、捕え置き、鹿野へ連絡するよう定めたもので、亀井氏の鹿野在城時代のものともみられる。また、同文書中の文禄五年(一五九六)二月四日亀井茲矩捷書は、勝部奥郷の「村々きらざる木」を定めたもので、当時、八葉寺村は勝部奥郷に属していたと考えられる。

近世の八葉寺村は、拝領高百四十九石余、「天保郷帳」の村高百五十二石余で、『因幡志』によれば戸数七十一であった。他村との距離は、下流の鳴滝村へ二十五町、北へは山越えにより山田村へ二十町、東へは山越えにより日置谷の早牛村へ二十三町である。産物に階田美濃紙があり、楮の生産が行われていた。紙の生産は、周辺地域でも盛んに行われ、この地域の主要な産業であった。

近代以降の八葉寺村は、明治五年(一八七二)一月、鳥取県第八大区



(旧気多郡)第四十九区に周辺十二カ村と共に編入され、同六年十二月には、大小区制の施行により、第八大区小六区と名称が変更された。同十二年一月、大小区制が廃止され、郡・町村が置かれ、周辺の桑原・澄水・楠根・紙屋・田原谷と連合して戸長を置いた。同十七年四月、行政区画の改革が行われ、先の六村に鳴滝・北河原・山田・亀尻を加えた十カ村の連合戸長役場が鳴滝村に置かれた。同二十一年、町村制の公布により、翌二十二年十月、かつての六村によって勝部村ができ、紙屋に役場が置かれた。その後、昭和二十八年(一九五三)七月一日、勝部村は青谷町・中郷村・日置谷村と合併して青谷町となり、青谷町は同三十年三月三十一日、日置村とも合併して現在の青谷町となった。

2、植田家について

植田家の出自は明らかでないが、現在、植田家で位牌等により伝承されている歴代の当主は次のとおりである。

- 初代 斧右衛門 文化元年（一八〇四）十一月七日没
- 二代 善五郎 文化二年（一八〇五）十一月二十四日没
- 三代 善五郎（善五良）文化十四年（一八一七）七月八日没
- 四代 善五郎（善五良）天保三年（一八三二）四月二十一日没
- 五代 源八郎（磯次郎・源五右衛門・菅水倉小麿）明治十三年（一八八〇）十月二十三日没
- 六代 幸一郎（楠丈）明治二十八年（一八九五）十二月十七日没
- 七代 国吉 大正十五年（一九二五）三月二十七日没
- 八代 延藏 昭和五年（一九三〇）旧九月六日没
- 九代（当代） 美実

歴代の当主についてみると、初代斧右衛門は、資料65から寛政四年（一七九二）には八葉寺村庄屋をつとめており、植田家は成立当初から、村内の上層にあったことが推測される。現在、植田家では、斧右衛門の名しか伝わらないが、資料66には、天明四年（一七八四）に善五郎の名が見え、斧右衛門の子孫が善五郎を称していることから、斧右衛門が若いころ善五郎を名乗ったことが推測される。さらに古い時期には、宝曆九年（一七五九）の資料67に、惣四良の名も見える。これも斧右衛門の前身である可能性がある。

二代・三代の善五郎については、残存史料が少なく、不明な点が多い。位牌に記された没年から、斧右衛門の長命のため、当主としての時期は

- (2)、冠婚葬祭
- 四、俳 諧
- 五、子弟教育
- 六、その他の文書
- 七、書 籍
 - (1)、漢 書
 - (2)、国 文
 - (3)、軍記・歴史・読物
 - (4)、曆・易・本草学
 - (5)、心学・修験・黒住教
 - (6)、農 書
 - (7)、和 算
 - (8)、そ の 他

目録の作成を急いだため、現在では不適當と思われる分類・配列も多いが、整理・保管上そのままとした。以下、それぞれの項目について概説する。

一、郡役人関係 は、五代植田源八郎（源五右衛門）が、気多郡筆算方として、また植物教諭方としてかわった文書群である。資料1〜12の安政四年（一八五七）に作成された簿冊は、安政二年に藩内全域で行われた田畑宛口米調査の補足として作成された宛口微細帳各種である。この帳の性格については、『鳥取藩史』5 民政志六四一ページに詳しい。源五右衛門は、筆算方として鳴滝村より上流の各村を担当しているが、下流の鳴滝村・北河原村にもなんらかの形でかかわったためか、両村の資料も残されている。資料48〜60は、文久元年（一八六一）十一月、源五右衛門が植物教諭方を命ぜられて以後の、同職に関する資料である。

共に短かったことがわかる。四代善五郎についても、同様に史料は少ないが、資料66によれば、文政十三年（一八三〇）に四十二歳の賀を迎えており、生年は寛政元年（一七八九）と推定される。

五代源八郎は、本資料中に最も多くあらわれる。初名を磯次郎といい、後、源五右衛門と改め、明治期には源八郎と改めている。安政期には、気多郡筆算方（大庄屋手伝のうち筆算を担当したものか）をつとめ、文久元年（一八六一）十一月二十七日には、藩から植物教諭方（気多郡で一人）を命ぜられ、勤中苗字帯刀を許されている。また、源八郎は菅水倉小麿の俳号を持つ俳人でもあった。小麿は周辺の俳人から「小麿宗匠」と呼ばれており（資料68）、この地域の俳諧の指導的地位にあったことが知られる。六代幸一郎は、明治五年（一八七二）六月より八葉寺村長をつとめ、また、楠丈の号を持つ俳人でもあった。

七代国吉は、明治三十年五月から三十一年九月まで、三十五年十月から三十六年六月まで、三十八年一月から大正二年（一九一三）一月まで、同四年四月から五年八月までの四度、勝部村長をつとめている。現当主美実氏も、戦後、勝部村議会議員をつとめている。植田家の生業は、専ら農業であり、近代以後は、牛の生産を主とする経営であった。

3、植田家資料の概要

本資料に含まれる資料は多岐にわたっており、整理の過程で、とりあえず以下の項目に分類整理した。

- 一、郡役人関係
- 二、村役人関係
- 三、家 営
- (1)、経 営

植物教諭方の職務が、郡内の楯・桑の植付けや、養蚕に関するものであったことを示している。この役職は明治三年（一八七〇）に廃止されている。

二、村役人関係 には、村政にかかわるものを収めた。植田家は、初代斧右衛門が庄屋をつとめていたことが資料65・66より知られているが、それ以降は庄屋としての記録は見えない。したがって、村関係資料は少なく、ここに収められた資料のうちには、植田家の経営に関するものもある。

三、家 営 は、経営と冠婚葬祭に分けた。前者は、植田家の所持地を記載した名寄帳や、小作料を示した地利米帳、土地集積の過程を示す賃入証文・売買証文、あるいは訴訟等に関するものである。後者は婚礼等の際の記録である。

四、俳 諧 では、本資料の特色の一つである俳諧関係資料を収めた。五代源八郎は、菅水倉小麿の俳号を持ち、また、六代幸一郎も楠丈の号を持つ俳人であった。青谷町鳴滝の神前神社参道に建つ天保十五年（一八四四）の芭蕉句碑には、周辺八カ村の十二人の願主名が刻まれているが、この中に「小麿」の名もあり、すでに小麿がこの地域の俳諧の中心的存在の一人であったことがわかる。また芭蕉句碑建設にみられるように、この地域の俳諧が蕉風の影響を受けており、当時、因幡の俳壇では、高草郡吉岡の筒井寸風が蕉風の中心的存在であったことから、その指導を受けていたものと推測される。本資料中にも、寸風が選者になった句会の資料があることも、それを裏付けている。本資料から、当時のこの地域の俳諧のようすを、おぼろげながら知ることができる。例えば、資料99の文久三年（一八六三）の気多郡宝木村の観音堂奉納句を見ると、句を奉納した人々の居所は、宝木・船磯・勝見・殿・紙屋・飯里・鹿野・青屋・亀尻と、ほぼ気多郡全域にわたっており、資料99の慶応四年（一

八六八) 八月の熊野山祭に句を書いた提灯を奉納した俳人は、鳥取町や伯耆園の江北・宮内村などのように郡を越えて広がっていることが知られる。文久二年の選者は、先に触れた筒井寸風であり、慶応四年のものは、気多郡船磯村出身で、鳥取へ出ていた芳尾仙林であった。両者には重複する人名が多く、気多郡を中心とする地域俳壇が形成されていたこと、そのグループは郡を越えて他地域の俳人と交流を持っていたこと、指導者として、筒井寸風、芳尾仙林等、因幡の中心的俳人をいただいていたことなどが知られるのである。

なお、鳥取県下の近世の俳諧については、荻原直正『鳥取俳人史』や『鳥取県史』5 文化産業で詳しく触れられ、また、青谷町域についても『青谷町誌』に青谷町の主要な俳人を掲げて説明しており、幕末期には俳諧が農村部まで広く普及していたことは、すでに知られていることであるが、本資料は、それを裏付けるとともに、気多郡域での具体的なあり方が知られる好資料といえる。

五、子弟教育 には、庭訓往来等の往来物や習字手本類、教科書類を収めた。江戸時代の教育の普及については、広く指摘されているが、八葉寺村のような山間の村もその例外でなく、高度な学習が行われていたことを示している。

六、その他の文書 には、寺や講、宗教等に関するものが含まれている。

七、書籍 には、俳諧関係以外の書籍を収めた。分類項目に示したように、その内容は多岐にわたっており、植田家歴代の示した関心の幅の広さがうかがわれる。論語・中庸等の漢書や、和漢朗詠集等の国文関係、また歴史物などの基礎的教養に関する書籍はもちろん、易学・本草学・心学・農書など、多くの知識を書籍によって求めている。そのうち、心学については、その刊行年代から推測して、五代源八郎が求めたものと

あとがき

「気多郡八葉寺村植田家資料」は、昭和六十三年三月の受け入れ時に、福井淳人・坂本敬司が整理を行って目録を作成した。目録の作成にあたっては、原表題のあるものはそれを採って資料名とし、内容のわかりにくいと思われるものは括弧()で補った。また、表題のないものは、整理者が資料名を付し、()で示した。その他、作成者・請取人・作成年月日等の判明するものは、資料名の後に記し、さらに形態・数量を付した。

本報告書は、坂本敬司が担当して執筆した。

思われる。『鳥取県史』5 文化産業によれば、鳥取における心学の受け入れは、岩井郡洗井村に生まれた平井洗心とその子平井洗信によるところが大きい。平井洗信は、嘉永元年(一八四八)に心学講社「成教舎」を鳥取につくり、心学の普及にとめた。洗信は、鳥取鹿野街道で薬種商を営んでおり、安政三年(一八五六)には、種物住法伝授と心学教諭のため因伯三州の巡回の許可を得ているが、源八郎のちに植物教諭方となっていることからみて、源八郎の心学への関心は、この洗信とのならぬ関係によるのかもしれない。両者の関係は確認できないが、幕末期の農村に心学がある程度普及していたことは、この書籍の存在が物語っている。その他、書籍中には、近世前期の古い木版本がかなり含まれており、貴重なものが多い。

今回収集した資料は以上であるが、植田家には未整理の資料がまだかなり残されており、今回の調査報告ではそれについては触れることができなかった。いずれ改めて調査を行いたいと考えている。また、本資料の性格は多岐にわたっており、本報告書で触れることのできなかった点や、調査が不十分な点は非常に多い。それらについては、本報告書の刊行を契機に、本資料を広く利用していただき、いろいろと教示を得ながら調査を続けたいと考えている。以上、簡単ながら解題とさせていただきます。

平成三年度

資料調査報告書 第十九集

—— 気多郡八葉寺村植田家資料 ——

平成四年三月三十一日 発行

鳥取県立博物館

〒680 鳥取市東町二丁目一二四
電話 〇八五七一一六・一八〇四二